



自転車社会の環境改善を目指して No.43

## 「ビワイチ」を通じて自転車が使いやすい社会をつくる 輪の国びわ湖推進協議会の活動



文

特定非営利活動法人 自転車活用推進研究会 会員 藤本芳一  
輪の国びわ湖推進協議会 会長

自転車活用推進研究会 事務局：  
〒141-0021 東京都品川区上大崎 3-3-1 自転車総合ビル 4 階  
TEL 080-3918-2932 URL <http://www.cyclists.jp/>

### 設立のきっかけ

近年、各地で自転車利用環境の整備が進みつつありますが、普段自転車に乗らない人に自転車の良さや、交通手段としての可能性を理解してもらうのは難しいものです。しかし、滋賀県では「子供は一度はびわ湖一周サイクリングに挑戦する」と言われ、「びわ湖一周」と言うと、自転車に乗らない人でも興味を示してくれます。

「ビワイチ」とは、以前から自転車好きの間で使われてきたびわ湖一周サイクリングの略称です。一周約200km。大阪-名古屋間にも匹敵する距離ですが、平坦な道が多く、ちょっといいスポーツ自転車を使えばサイクリング初心者でも1泊2日程度で走破できます。がんばれば可能だが、簡単ではない絶妙の距離で、日本一の湖を走破するという明快な目標にもなるため、自転車好き以外の方でも一度は挑戦したいと思うようです。

そこで、ビワイチを利用して、自転車に乗らない人にもその良さを知っていただければ、そして自転車好きが増加すれば、自転車利用環境整備を進めるための大きな力になるのではないかと考えました。また、

今の日本では品質の悪い、安い自転車が主流で、そのことが自転車の可能性を狭めています。スポーツ自転車を使い、長距離走行を楽しむことで、その本当のポテンシャルを理解する人が増えるのではないかと考え、2009年10月、市民の有志を中心にNPO法人や企業が集まり、「輪の国びわ湖推進協議会」を設立しました。

### PR から行政への働きかけまで

活動内容としては、まずびわ湖一周サイクリング認定証の発行です。一周ルート上に14カ所のチェックポイントを設け、スマートフォンや携帯電話でチェックを行って、表示されるクイズに答えていただきます。4カ所以上でチェックすると認定証の発行を申請していただければ、当協議会事務局からびわ湖のヨシ紙を使っ

た認定証とステッカー（年毎に色を変えます）を送付しています。申請者は年々増加し、累積で5000人を超えました。

さらに多くの方にビワイチを楽しんでいただき、かつ安全に走行していただくことを目的に、輪の国びわ湖メンバーが手分けして実際に自転車で走って調査し、その結果をまとめ、2011年にガイドブック「ぐるっとびわ湖自転車の旅」（京都新聞出版センター）として出版しました。びわ湖一周コースだけでなく、周辺の「中山道」などの街道を走るコース、「近江八幡・安土」などのエリアをめぐるコースも掲載しています。その理由はひたすら走って終わりではなく、様々な見所や店に立ち寄り、ゆっくりと時間をかけてびわ湖や滋賀の魅力を知っていただくことを目的にしているからです。これまでに1万部以上を販売し、今年の春には改訂版を出版すべく、現在制作作業中です。

自転車に対して理解のある宿泊施設や店を増やすため、協賛ショップの募集も行っており、現在45件の登録があります。協賛ショップには、自転車で来られた方向けに割引やプレゼントなどの特典を用意していただきます。特典は、輪の国びわ湖ウエ



びわ湖一周サイクリング認定証とステッカー

ブサイトやパンフレットに掲載し、自転車利用者へPRしています。近年はビワイチサイクリストの増加により、宿泊施設からの問い合わせが増えています。制度としては日常利用者へのサービスも視野に入れています。

また安全啓発の一環として、滋賀県ゆかりのマンガ家、大塚志郎先生にイラストをお願いし、「自転車は左側通行」のポスターを作成して、県内の道の駅やコンビニに掲示しました。マンガを使ったことで中高生にも人気があり、県外からも引き合いがあります。

これらのPR活動とあわせて、滋賀県での自転車の日常利用環境整備を進めるため、県や県下の自治体、警察、関連事業者と共に、2012年に

「滋賀プラス・サイクル推進協議会」を設立しました。安全で快適な走行環境づくりについて関係団体への提案活動もおこなっています。

## 地域活性化の手段として

### 注目を集める

現在、自転車を使った観光が地域活性化の手段として大きく注目を集め、しまなみ海道を初めとして、サイクリング環境の整備を積極的に進めている自治体が増えています。

輪の国びわ湖でも2014年から毎年、自転車を使った観光を各地で実践されている方々とのネットワークづくりを目的に、サイクルツーリズムシンポジウムを開催しています。遠くは岩手県や愛媛県からも、自治体や観光に携わる方の参加があり、関心の高さが伺えます。

そして昨年、三日月滋賀県知事が観光振興のためビワイチの推進を表明し、ビワイチは次のステップに向けて大きく動き出しました。県や各地域の自治体が主体となり、米原駅前でビワイチ用スポーツ自転車のレンタサイクルの実施、道の駅やコンビニ等にサイクルラックや空気入れや工具を備えたサイクルサポートステーションの実施、車道上の自転車走行位置指定のための矢羽根印の表示、守山市での漁船を使った自転車搭載可能な湖上タクシー等の試行が行われました。これ

らについてはいずれも今年本格実施を目指しています。

道の駅でのサイクリストへのアンケートや、湖岸数ヶ所にビデオカメラを設置しての自転車走行台数の測定が行われ、1年間のビワイチ推計台数は約5万4千台との発表がありました。また、90%が反時計回り(左回り)であるとのこと。反時計回りの方が湖岸近くを走れ、景色も良く、交差する道も少ないためです。ビワイチサイクリストは左側通行を守っている方が多いことが推測できます。

## 自転車+公共交通を優先的に 選べる社会へ

滋賀県では「県民の95%が駅から5km以内に居住」というデータがあり、日常利用としての自転車に大きな可能性があります。しかし、現実には車社会で、ようやく自転車の観光利用に対する関心が高まりつつある段階で、日常利用のための環境整備はまだまだこれからです。しかし輪の国びわ湖のビジョンは「移動するときの手段として、自転車+公共交通を誰もが優先的に選ぶようにすることで、将来に渡ってみんなが幸せに暮らせる社会。」の実現です。観光としてだけでなく、日常利用の促進にもさらに力を入れ、滋賀を「輪の国」に、さらにその動きを全国に波及させることを目指して行きます。 PP



「自転車は左側通行」ポスター



### 「自転車検定」を始めました

インターネットで、いつでも受験できる「自転車検定」サイトを設けました。無料のお試し検定も行っています。自転車活用推進研究会のホームページ(<http://www.cyclists.jp/>)からどうぞ。